

令和4年度 社会福祉法人淡路島福祉会 事業方針

社会福祉法人 淡路島福祉会
本部長 岡本和浩

2022年、長引くコロナ禍を過ごしてきた中で、「With コロナ・After コロナの社会情勢に適応するための行動」ニューノーマルが見えてきました。また、「SDGs」を考えることが当たり前の世の中に変化し、一般的なキーワードになりつつあります。

当法人でも、オミクロン株で多数の感染者が出て、休所している事業もあります。濃厚接触者となった職員が出勤できず、相次ぐ勤務交代、他事業からの応援などで対応しています。本当に大変な状況下ではありますが、職員や関係者の皆様の、絆、連帯感、おもいやり、強い意志、やさしさ、努力、工夫、助け合い、プライド、感謝・・・そんな光景を、日々、目の当たりにしています。感染者専用の居室対応に一番に手を上げる職員。ホテルや施設に寝泊まりしながら、昼夜を問わず身を粉にして働いている職員。それぞれが出来ることを自発的に考え行動しています。職員一人一人の職業倫理に熱いものがこみ上げてきます。その努力に報いなければなりません。

新型コロナウイルスの流行が終息し、ワクチン及び内服薬などを含む対応策が確立されたとしても、もはや以前通りの世の中へと戻っていくことは難しいでしょう。だからこそ、生活のあらゆる局面で「新たな常識」を意識することが必要です。

今年の課題は

- ① 新型コロナウイルス感染症終息後のニューノーマルに適応していきます。
- ② 老人保健施設ひまわりの移譲を滞りなく実施します。
- ③ BCP(事業継続計画)を策定し、緊急時においても事業の継続・早期復旧を図れるように準備します。
- ④ 予期せぬ状況下においても、中長期ビジョンに沿って、臨機応変な対応も組み入れながら、着実に計画性のある事業運営を行います。
- ⑤ 社会福祉事業における「SDGs」を意識し、取り組んでいきます。
- ⑥ 福祉人材確保のため幅広く新しい視点で職員の処遇改善に努めます。
- ⑦ 南あわじ市の福祉政策及び地域の福祉事業の連携等に協力・貢献します。
- ⑧ 地域の特性を鑑み、地域に親しまれ信頼される福祉事業所であり続けます。

未来を予測して備えることの困難さを痛切に感じています。また、緊急事態が発生した場合の対応の難しさも経験しています。今までにない状況下で臨機応変な対応が迫られ、日々新しい判断をしています。救いは、仕事にプライドを待って立ち向かう職員の強い意志と行動力です。この局面を乗り越え福祉事業を守る一年にしたいと思います。